

# 令和元年播種（令和2年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔3月20日調査結果〕

## 1. 供試品種および耕種概要(10月中旬区・10月下旬区共通) (10月中旬区)

供試品種	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦		シラネコムギ
		夏黄金

- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6.0 kg/a
- ・排水対策：暗渠および弾丸暗渠  
(ほ場長辺方向 2.5m×ほ場短辺方向 5m 間隔)
- ・ほ場条件：沖積埴壤土 転換初年目(前作水稻)

- ・播種期：10月17日
- ・播種量：0.9 kg/a(ドリル播き, 条間 28 cm)
- ・施肥：尿素燐加安 777 号  
(N : 0.8 kg/a, P205 : 0.8 kg/a, K20 : 0.8 kg/a)  
(10月下旬区)
- ・播種期：10月30日
- ・播種量：1.0 kg/a(ドリル播き, 条間 28 cm)
- ・施肥：(10月中旬区と同じ)

## 2. 気象概況 (表1, 図1)

- ・平均気温は、平年より高温で経過した。
- ・降水量は、2月第4半旬と3月第2半旬にまとまった降雨があつて期間合計でやや多く、ほとんどが雨となつた。積雪は2月5日以降記録されておらず、冬期間を通じて少雪であつた。
- ・日照時間は、3月第4半旬を除き少照傾向であつた。

表1 気象経過(2月中旬～3月中旬)古川 AMeDAS

	平均気温		積算降水量		積算日照時間	
	本年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (hr)	平年比 (%)
2月中旬	4.3	3.8	20.5	118	46.7	92
2月下旬	4.0	2.7	11.0	95	36.8	86
3月上旬	5.5	3.5	44.5	234	33.7	65
3月中旬	5.5	1.9	10.0	44	61.2	106

注1) 気象庁:古川AMeDASデータから引用

注2) 平年差(比)は古川AMeDAS平年値データとの比較

## 3. 生育概況

### 1) 3月20日現在の生育状況 (表2)

- ・10月中旬播種では、大麦・小麦ともに平年と比較して草丈が大きく、莖数は平年の約 80%となつた。葉数も平年より+1.1~+2.5枚多かった。
- ・10月下旬播種の生育量は、10月中旬播種と比較して、草丈が 69~82%, 莖数が 91~127%, 葉数が 78~90%であつた。
- ・大麦・小麦ともに、暖冬の影響で生育ステージが進んで、分けつのピークも早まったため、平年同期と比較した莖数は少なくなった。

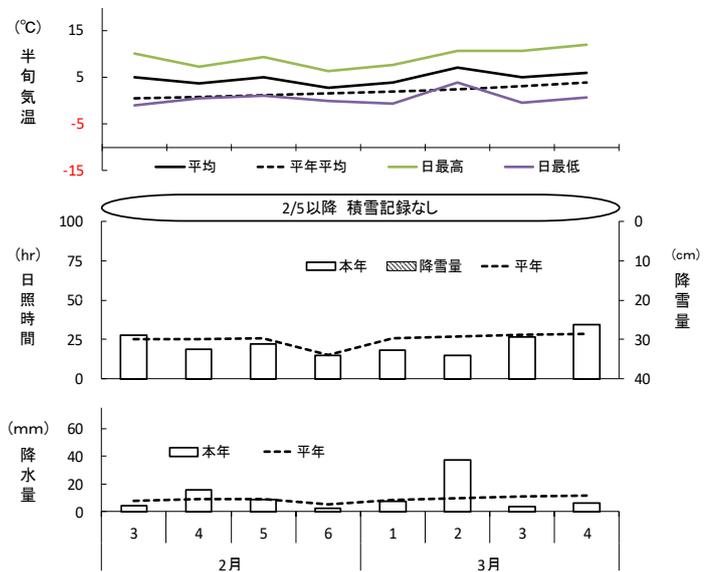


図1 気象経過 古川 AMeDAS

### 2) 幼穂分化状況 (表3)

- ・10月中旬播種の大麦の幼穂長は約 5 mm, 小麦は約 2 mm で、平年より長かつた。
- ・10月下旬播種の大麦の幼穂長は約 3 mm, 小麦は約 2 mm で、前年より長かつた。
- ・10月中旬播種の大麦は、平年より 40~44 日早い 12 月末~1 月中旬頃に、10 月下旬播種の大麦は 2 月中旬頃に、幼穂形成始期に達したと推定される。
- ・10 月中旬播種の小麦は 2 月中旬頃に、10 月下旬播種の小麦は 3 月上旬頃に幼穂形成始期に達したと推定され、10 月中旬区の「シラネコムギ」では、平年より 27 日早かつた。

表2 生育状況（草丈・茎数・葉数）（3月20日現在）

品種	区別	草丈			茎数			葉数			
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	
大 麦	シュンライ	10月中旬区	20.1	124	160	735	51	70	8.2	0.5	1.1
		10月下旬区	13.9	118	-	935	68	-	7.4	0.9	-
	ミノリムギ	10月中旬区	19.5	120	150	953	61	89	9.8	1.4	2.5
		10月下旬区	16.1	127	-	864	67	-	7.7	0.6	-
小 麦	シラネコムギ	10月中旬区	20.0	101	143	825	50	79	9.3	0.8	1.8
		10月下旬区	16.1	115	-	921	58	-	8.2	1.2	-
	夏黄金	10月中旬区	19.4	134	-	899	54	-	9.0	1.3	-
		10月下旬区	13.6	143	-	979	91	-	7.4	0.9	-

注1) 10月中旬区の平年比(差)は、平成25年播種を除く過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値との比較。

注2) 10月下旬区は平成29年播種から、「夏黄金」の10月中旬区は平成28年播種から供試のため、平年値(比・差)はない。

注3) 幼穂分化程度: V期末満は省略。

表3 生育状況（幼穂長及び幼穂分化程度）（3月20日現在）

品種	区別	幼穂長			幼穂 分化 程度	幼穂形成始期			
		本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)	
大 麦	シュンライ	10月中旬区	5.9	2.6	3.3	X	12/29	12/28	2/11
		10月下旬区	3.6	1.5	-	IX	2/12	3/1	-
	ミノリムギ	10月中旬区	5.4	2.4	3.1	X	1/11	2/4	2/20
		10月下旬区	3.6	1.4	-	IX	2/13	3/5	-
小 麦	シラネコムギ	10月中旬区	2.5	0.6	1.2	IX	2/17	3/6	3/15
		10月下旬区	1.6	0.5	-	IX	3/10	3/16	-
	夏黄金	10月中旬区	2.8	1.4	-	IX	2/15	3/13	-
		10月下旬区	2.1	1.3	-	IX	3/10	3/20	-

注1) 10月中旬区の平年比(差)は、平成25年播種を除く過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値との比較。

注2) 10月下旬区は平成29年播種から、「夏黄金」の10月中旬区は平成28年播種から供試のため、平年値(比・差)はない。

注3) 幼穂分化程度: V期末満は省略。

注4) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。

〔参考〕麦類の幼穂分化程度と幼穂長 (mm)

区 分	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
大麦（シュンライ等）	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	
小麦（シラネコムギ等）	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略。

厳密にはVII期は「前・後期」に、IX期は「前・中・後期」に区分される。

令和元年播種（令和2年産）麦類生育調査ほ生育状況〔3月20日調査結果〕

表4 令和元年播種（令和2年産）麦類 生育調査ほ 耕種概要

担当普及 センター	品種	実施場所	畑転換	排水対策	播種期 (月/日)	播種量 (kg/a)	条間 (cm)
			年数	(明渠, 暗渠等)			
大河原	シュンライ	大河原町金ヶ瀬	21	暗渠	11/10	0.8	30.0
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	3	暗渠	11/8	0.8	30.0
仙台	ホワイトファイバー	大和町落合	2	本暗渠, 弾丸暗渠, 明渠	11/18	1.0	30.0
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	2	暗渠, 心土破砕	11/1	0.9	15.1
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	6	明渠	11/18	1.5	25.0
	夏黄金	涌谷町	1	明渠	11/11	1.2	20.0
登米	あおばの恋	登米市豊里町	18	明渠, 暗渠	11/6	1.0	25.0
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	本暗渠, 弾丸暗渠, 明渠	11/2	1.0	29.5
	ミノリムギ	石巻市桃生町	1	本暗渠, 弾丸暗渠, 明渠	11/1	1.0	30.7
	シラネコムギ	石巻市桃生町	1	-	11/9	1.1	23.2

注) 播種様式は「ドリル播き」。

表5 麦類生育調査ほ 生育状況(3月20日現在)

担当普及 センター	品種名	草丈			茎数			幼穂長		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
大河原	シュンライ	14.0	139	126	829	111	112	2.5	1.3	0.5
	ホワイトファイバー	15.7	-	-	1152	-	-	2.2	-	-
仙台	ホワイトファイバー	12.2	82	-	476	55	-	2.1	-0.4	-
大崎	シラネコムギ	13.0	116	100	635	64	57	0.4	-0.8	-0.5
美里	シラネコムギ	18.0	150	152	1216	279	129	0.5	0.2	-0.2
	夏黄金	15.2	117	136	890	52	105	0.6	-0.5	-0.1
登米	あおばの恋	22.2	187	-	1134	651	-	0.2	-0.4	-
石巻	シュンライ	10.5	67	81	649	51	119	1.6	-0.8	-0.8
	ミノリムギ	15.5	104	104	365	43	56	1.3	-1.3	-0.9
	シラネコムギ	13.5	97	106	190	27	20	0.4	-0.3	-0.3

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原町「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、前年値(比・差)及び平年値(比・差)はない。

注3) 大和町「ホワイトファイバー」は、平成30年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注4) 登米市「あおばの恋」は、平成28年播種からほ場変更のため、平年値(比・差)がない。

## <生育状況等に関する担当農業普及センターのコメント>

(注)普及センターのコメントでは、各地域で観測した値と比較している場合があるため、表5の平年比(差)と一致しない場合がある。

### 大河原「シュンライ」,「ホワイトファイバー」

- ・平均気温は、2月以降も平年より高く推移した。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は、平年よりやや少なかった。
- ・「シュンライ」は、幼穂長2.5mm、主茎4mm程度、草丈14cm、茎数829本/m<sup>2</sup>となった。
- ・「ホワイトファイバー」は、幼穂長2.2mm、主茎3~4mm程度で、生育量では、「シュンライ」と比較して、特に茎数が大幅に上回った。
- ・気温が高いことなどから、生育が過剰傾向となり、一部に肥料不足等による黄化が見られる。

### 仙台「ホワイトファイバー」

- ・平均気温は、高く推移した。3月中旬にまとまった降雨があり、ほ場は一時湿潤状態となった。
- ・鳥獣害、雪害、凍害等はみられず、3月20日現在の生育は順調である。
- ・調査時点の幼穂長は2.1mmで、幼穂形成始期は3月9日、茎立期は3月22日頃と予想される。
- ・幼穂形成期始期頃に追肥が実施された。

### 大崎「シラネコムギ」

- ・生育量は、草丈は13.0cmで概ね平年並だったが、茎数635本/m<sup>2</sup>、幼穂長0.4mmとなり、茎数と幼穂長が平年を下回った。
- ・白鳥による食害が見られた。

### 美里「シラネコムギ」,「夏黄金」

- ・鳥獣害、雪害、凍害等は確認されていない。
- ・ほ場が湿潤な状態が続き、麦踏み等が実施されていない。
- ・3月20日現在の生育は順調で、幼穂形成始期は、「シラネコムギ」で3月28日頃、「夏黄金」は3月24日頃と推定される。

### 登米「あおばの恋」

- ・積雪は、ほとんどなかった。
- ・鳥類による食害が見られた。
- ・ハコベ類やアゼナ類の発生が散見される。

### 石巻「シュンライ」,「ミノリムギ」,「シラネコムギ」

- ・平均気温、日照時間、降水量の平年比較は、2月が、平均気温+2.2℃、日照時間87%、降水量41%、3月上旬が、平均気温+3.3℃、日照時間74%、降水量314%、3月中旬が、平均気温+2.7℃、日照時間104%、降水量0%であった。
- ・3月10日に41.5mmのまとまった降雨があったほかは、2月~3月中旬まで、高温・寡照・少雨傾向で推移した。
- ・生育状況では、「シュンライ」の茎数は回復したが、「ミノリムギ」,「シラネコムギ」の茎数は平年を大幅に下回り、幼穂長は、大麦、小麦ともに平年よりも短い傾向であった。